

事務事業名		伊那谷美術展示公開事業		会計	一般会計	実施区分			
H28担当課等名		美術博物館		事業種別	政策	開始	1	終了	
H28係等名		学芸係		H27係等名		学芸係			
基本計画上の位置づけ		政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり					
		施策	29	ふるさと意識の醸成					
目的	対象(誰・何を)	1 飯田下伊那広域圏の地域住民 2 学芸員の調査・研究活動					指標名及び単位		27年度数値
	意図(どういう状態にするか)	1 展覧会の開催を通じて、自然や文化・芸術に対する関心が高まり、新たな知識や感動を得る 2 調査研究活動の成果を地域に還元する					圏域住民数(人)		165162
	向上させたい上位施策の成果指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)							
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)
	成果指標	展覧会の観覧者数(延べ人数)			9000	13093	7000	-	
	成果指標	実施した展覧会(特別展・企画展・特別陳列・コレクション展示)の回数(回)			9	9	3	-	
	定性目標								
事業概要	飯田下伊那地方は、江戸時代の佐竹蓬平や鈴木芙蓉を筆頭に、様々な美術家を輩出した地域である。これら伊那谷に関わりのある美術家についてコレクション展示や特別展を実施する。この事業により美博を訪れれば伊那谷ゆかりの美術を鑑賞することができ、飯田の文化芸術を概観することができるようにする。これによって地域の文化芸術に感動し、誇りと愛着を実感できる場を作る。この事業は以下の内容となる。								
	1 郷土作家の館蔵品・寄託品などをコレクション展示(平常展示)を通じて公開する。 2 郷土作家に関する特別展を計画し、実施する。								
事業内容				名称			活動指標		
27年度事業内容	1 コレクション展示【郷土美術関連】			1 コレクション展示開催数			1 8回		
	(1)井村・岩崎新太郎・日夏耿之介コレクション会期:平成27年4月25日～5月31日 (2)郷土近代の日本画 棚田泰生 会期:平成27年4月25日～6月7日 (3)郷土の洋画 会期:平成27年4月25日～6月7日 (4)南画郷飯田1 蓬平・芙蓉・蓬山 会期:平成27年6月20日～7月20日 (5)南画郷飯田2 鉄斎・耕斎・小洲 会期:平成27年7月25日～8月23日 (6)藤本四八の東京 会期:平成27年6月20日～8月23日 (7)新収蔵品 会期:平成27年8月29日～10月4日 (8)抽象画家須田剋太とオノサト・トシノブ 会期:平成28年3月19日～5月8日			2 企画展示開催数			2 1回		
2 企画展【郷土美術関連】									
(1)第16回現代の創造展 会期:平成28年2月21日～3月13日									
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		1,267	2,707	2,678	7,264	(国)社会資本整備総合交付金(市街地整備)(4.5/10)			
国庫支出金		42	531	531	1,962				
県支出金									
起債									
その他									
一般財源		1,225	2,176	2,147	5,302				
人件費計(千円)②		0		0					
正規職員所要時間									
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		1,267	2,707	2,678	7,264				
事業内容・目標達成状況の振り返り		コレクション(収蔵作品)の展覧回数を増やしたことで、現代の創造展の改革とが功を奏し、観覧者数が目標値よりも増加した。							
改革改善の考え方	①問題点	現代の創造展は近年、新人発掘やコンテンポラリー部門の充実など、企画に工夫を加えてきている。							
	②改革提案	第15回展は、展示方法に工夫があったとともに作品全体のレベルが向上し、新人も多く新鮮さが生まれ、観覧者数も回復してきた。実行委員会での議論をより活発にし、現在の改革の方向を継続する。							